

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
臨床社会学スタディーズ		選択必修	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾 他	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;現代は制度的形式や資本の体制が複雑を極め、自己が主体性を確立して社会生活を営む姿もまた多様・拡散化している。自己の社会的立場を安寧に相対化できる社会人になるには、自律的かつ能動的な思考及び判断力が重要となる。本科目では、地域へ意欲的に貢献できる社会的人材を養成するため、PBL スタイルの授業により、学生の自律的かつ能動的な思考及び判断力を涵養することを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;問題解決型 PBL (Problem-Based-Learning) の授業を展開する。特定の問題テーマを教員が提示してグループで問題解決することを通して、自律的かつ能動的な思考及び判断力を培うためのスキルを体験的に習得させる。本科目では、社会学・社会福祉学・心理学等の素養で構成される学際的領域「臨床社会学」に関するテーマを問題の題材に取り上げる。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	授業全般を通して、PBL スタイル特有の積極的な受講姿勢が必要となる。受け身的な学び方を排して、この授業から大学生としての学び方を飛躍させる熱意と好奇心を高めよう。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「大学1年生からのプロジェクト学習の始めかた」常磐拓司・西山敏樹(著)慶応義塾大学出版会				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	複雑な現実社会の問題を批判的に考えて分析し、解決策を見出すことができる。			HSU (2) (3) (5)	
②	解決に適する情報や資源を探索して、解決策の立案に活用できる。			HSU (2) (3) (5)	
③	チーム・グループの仲間と積極的に協働して解決に挑むことができる。			HSU (4)	
④	多面的かつ効果的な工夫を凝らして、成果を発表することができる。			HSU (4)	
⑤	他者から評価されるという視点を意識して、自分の活動を振り返ることができる。			HSU (6)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション~PBL スタイルを知る~ グループで協働するための技法を体験的に学ぶ①	講義・演習	活動評価表を作成する。	2	
2	グループで協働するための技法を体験的に学ぶ② 問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学を発展させよう」① ~問題の現状理解と分析~	演習・PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
3	問題提示型 PBL : 練習「健康科学大学を発展させよう」② ~解決策の立案、発表~	PBL	活動評価表を作成する。	2	
4	問題提示型 PBL : 本番①~問題選択と情報収集・整理~ (2021 年度実績 : ハラスメントのない大学を創る)	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
5	問題提示型 PBL : 本番①~問題の現状理解と分析(1)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
6	問題提示型 PBL : 本番①~問題の現状理解と分析(2)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
7	問題提示型 PBL : 本番①~解決策の立案~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6	
8	問題提示型 PBL : 本番①~発表会~	PBL	活動評価表を作成する。	2	
9	問題提示型 PBL : 本番②~問題選択と情報収集・整理~ (2021 年度実績 : [社会] 投票率、外見強制、生きづらさ)	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
10	問題提示型 PBL : 本番②~問題の現状理解と分析(1)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
11	問題提示型 PBL : 本番②~問題の現状理解と分析(2)~	PBL	活動評価表を作成する。問題の分析に取り組む。	4	
12	問題提示型 PBL : 本番②~解決策の立案~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6	
13	問題提示型 PBL : 本番②~中間発表会~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の振り返りを行う。	3	

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

14	問題提示型 PBL：本番②~批判的再検討~	PBL	活動評価表を作成する。発表会の準備を行う。	6				
15	問題提示型 PBL：本番②~最終発表会~	PBL	活動評価表を作成する。PBL 個人レポートを作成する。	5				
試								
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	20	20	0	60	100	
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10	
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	20	0	0	20	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法			
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	PBL 授業の全体を通して自らが取り組んできた活動の全てを活かして、指定された PBL テーマについて問題点の整理及び解決策を提言するレポートを個人で作成する。レポート作成の基本形式は修得している前提として、問題発見とその解決を導く創意工夫を評価する。			コメントを付して返却する。		
	②	✓						
	③							
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	グループで取り組んだ PBL の成果を発表して評価を受ける。 テーマ：本番①の発表会 5 点、本番②の中間発表会 5 点、最終発表会 10 点の配分を割り当てる。			評価はコメントを付して、自己（自分）及びグループともに返却する。		
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	PBL 授業の全ての回で、自己（自分及びグループに対する評価と記録）の活動への取り組みを記録・評価した活動評価表の提出を求める。また、グループメンバーからの他者評価を受けることも含まれる。			評価は次の活動に活かせるようコメントを付して返却する。		
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤	✓						
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	他担当教員：宇賀美奈子 坂本宏史							
そ の 他	感染症対策のため、今年度は最大 35 名の履修制限を行う。選択必修・PBL「スタディーズ」は前後期で計 4 科目が開講されるので、ガイダンス期間の履修指導に十分に留意すること。「臨床社会学スタディーズ」は 15 回設計であり、PBL を授業内で丁寧に学ぶ科目である。そのため、本科目はグループ活動への積極的参加が大前提であり、原則として全ての回に出席すること。なお、本学の規程に基づき演習系授業に該当するため、出席回数 5 分の 4 以上が単位取得には必要となる。また、全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。							

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】